

★核武装国から軍縮のヒーローになった南ア＝ハムシェ・バルア（I D N）

南ア共和国は、核兵器を開発しながらそれを解体した唯一の国であり、いま核兵器反対を大胆に訴えている。同国は2月25日、国連に核兵器禁止条約の批准書を寄託し、核兵器のない世界にむけ、また一步重要な措置をとった。

2017年ノーベル平和賞を受賞した核廃絶国際キャンペーン（I C A N）は、南アが核軍縮のリーダーシップを取り続けていることを称賛し、この行動はアフリカ諸国の条約加盟にむけた励ましになると希望を表明した。アフリカは大陸として、これまで核兵器反対の強い立場をとってきたが、いま個別の国々が核兵器禁止条約の早期発効にむけて重要な影響を及ぼすまたとない好機であると強調している。

南アによる条約批准は比類のないものだ。核兵器にまつわる独特の歴史があるからだ。ウランが豊富な南アは早くも1948年に、原子エネルギーとその建設を可能にする採鉱、貿易とエネルギー産業に関心をもった。政府が米国から最初の原子炉を購入したのは1957年である。

1977年まで公式には、核爆発計画の目的を平和目的から軍事目的に変えないとされていたが、米国情報では、核兵器計画を1973年に始めていた。当初は、強い国際的な圧力によって兵器の実験をすることができなかった。

しかし1982年までには最初の核爆発装置を造った。1989年までには6発の核爆弾を保有するにいたった。それぞれ55キロの高濃縮ウランを含み、19キロトンの爆発力をもつものだった。

1989年伊政府は核計画を公式に終了し、1991年に非核保有国として核不拡散条約（N P T）に加入した。1994年までに国際原子力機関（I A E A）は南アのすべての核兵器が解体されたことを確認した。

それ以来、同国は核兵器のない世界をめざす運動のチャンピオンになってきた。1996年に他のアフリカ諸国とともにアフリカ非核地帯を宣言した。ペリンダバ条約の名は、南アの旧核研究施設に由来する。アフリカ核エネルギー委員会（A F C O N E）は、各国の条約順守を保障する目的で設立されたもので、プレトリアに拠点がある。1999年に各国は包括的核実験禁止条約（C T B T）に加入した。

故ネルソン・マンデラ大統領は、1998年の国連総会での演説で、核武装国による核抑止力論を次のように批判した。

「我々は問わなければならない。恐ろしい大量破壊兵器の廃絶拒否を正当化するために念入りな議論をつくりだす人々にはナイーブに聞こえるかもしれないが、なぜ、彼らには核兵器が必要なのかと。冷戦を引きずり野蛮な力の脅迫によって一部の諸国が他の諸国に優位を押し付けることが結局は、どんな結果になるのか、理にかなった答えは満足な形で出すことはできない」

それ以降、南アは核軍縮の原則を確固として支持し、2012年以来、核兵器を終わらせるための人道的イニシアチブを推進する中核グループの一員となった。そのイニシアチブは国連の核兵器禁止条約運動に発展し、2017年7月7日の核兵器禁止条約（TPNW）の採択になった。南アはその日に条約に調印し、そしていま22番目の批准国になる。

「核兵器計画を自発的に解体した国として、南アは核兵器による安全はありえないという確固とした見地にたっている」「世界と人類から大量破壊兵器を取り除くために、すべての国連加盟国に禁止条約に調印し、批准するようよびかける」（2017年9月、条約調印式でのズマ大統領の発言から）

（以上）

（ジュネーブ＝IDN）